

科目名	システム開発応用技術Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 4年						
授業概要	システム開発に関わるツール、新技術に触れ、より高度なシステム開発ができることを目指す。 また、効率的に開発が行える技術の習得も行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					システム開発に用いる応用的な技術を習得し、システム開発に導入することができる	
	○					サンプルソース等を参照しながら、応用的に開発ができる	
	○					これまでに学んできた開発技術と融合させることができる	
テキスト・教材 参考図書	秀和システム Vue.js & Nuxt.js 超入門						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	環境構築			環境構築が時間内に完了できなかった場合、 自宅等で完了させてくること		
	2	React			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	Vue.js 入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	Vue.js 基本をマスター①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	Vue.js 基本をマスター②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	コンポーネントを使う			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	コンポーネントを掘り下げる			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	Nuxt.js 入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	Nuxt.js による状態管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	メモアプリを作る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	外部サービスを利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	総合演習①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	総合演習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	総合演習③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ						
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)小テスト(実技)を2回実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○				50%
	課題提出		◎		○		30%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	情報処理試験春期対策IVB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策IVB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	卒業研究B					
科目名(英)						
単位数	26単位	時間数	390時間	担当者	藤澤 昌聡	
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	情報工学科 4年					
授業概要	在学中に学んだ知識、技術を生かし、新たなITソリューションの開発および技術研究を行う。 社会問題の解決や、最新技術の可能性を探求し、成果物としてシステムを構築する。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					システム開発における「企画」「設計」「開発」「テスト」「検証」ができる
	○					グループでの開発に必要な情報共有をスムーズに行うことができる
	○					技術的課題に挑み、調査、検証を繰り返し解決することができる
テキスト・教材 参考図書	なし					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1～3	チーム編成、研究テーマ検討①			最新技術の情報収集および、社会の課題を調査	
	4～6	研究テーマ検討②				
	7～9	研究テーマ検討③				
	10～12	研究テーマ検討④				
	13～15	研究テーマ検討⑤				
	16～18	研究テーマ検討⑥				
	19～21	研究テーマ検討⑦				
	22～24	研究テーマ検討⑧				
	25～27	研究テーマ検討⑨				
	28～30	研究テーマ検討⑩				
	31～33	企画書作成①				
	34～36	企画書作成②				
	37～39	企画書作成③、企画書レビュー			企画書まとめ作業、および企画書レビュー準備	
	40～42	企画書レビュー、企画書修正				
	43～45	企画書再レビュー				
	46～48	基本設計①				
	49～51	基本設計②				
	52～54	基本設計③			基本設計レビュー準備 利用技術についての資料収集等	
	55～57	基本設計レビュー、基本設計書修正				
	58～60	詳細設計①				
	61～63	詳細設計②				
	64～66	詳細設計③				
	67～69	詳細設計④				
	70～72	詳細設計⑤				
	73～75	詳細設計⑥				
	76～78	詳細設計⑦				
	79～81	詳細設計⑧				
	82～84	詳細設計⑨			詳細設計レビュー準備	
	85～87	詳細設計⑩、詳細設計レビュー				
	88～90	開発①				

授業計画	91～93	開発②					
	94～96	開発③					
	97～99	開発④					
	100～102	開発⑤					
	103～105	開発⑥					
	106～108	開発⑦					
	109～111	開発⑧					
	112～114	開発⑨					
	115～117	開発⑩					
	118～120	開発⑪					
	121～123	開発⑫					
	124～126	開発⑬					
	127～129	開発⑭					
	130～132	開発⑮					
	133～135	開発⑯					
	136～138	開発⑰					
	139～140	開発⑱					
	141～143	開発⑲					
	144～146	開発⑳					
	147～149	開発㉑					
	150～152	開発㉒					
	153～155	開発㉓	プレゼン資料準備、練習を行う事				
	156～158	開発㉔、検証①					
	159～161	開発㉕、検証②					
162～164	開発㉖、検証③						
165～167	開発㉗、検証④						
168～170	開発㉘、検証⑤						
171～173	開発㉙、検証⑥						
174～176	開発㉚、検証⑦	プレゼン資料準備、練習を行う事					
177～179	開発㉛、検証⑧、最終プレゼン						
180～182	個人プレゼン①						
183～185	個人プレゼン②						
186～188	個人プレゼン③						
189～191	個人プレゼン④						
192～195	個人プレゼン⑤						
評価方法	<p>(1)レビューを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎		○		60%
	成果物提出		◎		○		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科4年						
授業概要	基本的なビジネスマナーの習得にとどまらず、その本質・背景をより深く理解し、単に知識の羅列でなく、なるべく具体的な素材をタイムリーなケースワークで学ぶ。 ビジネスの本質、マナーの本質を理解した人材。時事やトラブルに際しても本質を見極めて柔軟に対処できる、問題意識を持てる人材を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				各ビジネスシーンでの対応指針に沿った行動ができる	
		○				ビジネス文書を迷いなく作成できる	
		○				社会人として必要な冠婚葬祭や食事マナーを實踐できる	
テキスト・教材 参考図書	新星出版社 図解まるわかり ビジネスマナーの基本						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基本的な考え・電話のルール			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	メモを残す。携帯の有効活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	FAX、メールの使い分け			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	封書の有効活用・社内行事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	お辞儀・自己紹介・名刺			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	人物紹介・接客対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	訪問・接待・出張			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	ビジネス社外文書			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	ビジネス社内文書			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	慶弔電報・お中元・お歳暮・お見舞いのマナー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	慶事への招待・結婚式での所作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	弔辞への出席と基本的な所作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	テーブルマナーの基礎知識・席次等			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	日本料理・中華料理・西洋料理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	結局、ビジネスマナーとは、何のためにするのかを振り返る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを2回実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		○				30%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							